

令和6年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	サイデン化学アリーナさいたま(さいたま市記念総合体育館)
(2)施設概要	①所在地 さいたま市桜区道場4-3-1 ②施設の設置目的 市民の体育、スポーツ及びレクリエーションの振興を図る。 ③施設の概要 平成15年6月1日開館 建築面積 13,894.53㎡ 建物面積 17,739.75㎡ メインアリーナ、サブアリーナ、多目的室、温水プール、トレーニング室、 フィットネススタジオ、弓道場、ランニングコース、会議室、研修室 他
(3)指定管理者	スポーツのまち さいたまパートナーズ ※代表企業 コナミスポーツ(株) 構成企業 毎日興業(株)、(株)埼玉新聞社
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日 ②指定管理料 令和4年度:128,346千円、令和5年度:142,692千円、令和6年度:142,692千円
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況(括弧内は前年度の数値) 【利用件数】 202,785件(前年197,219件) 【利用人数】 417,848人(前年396,255人) 【利用率】メインアリーナ:86.0%(77.5%)、サブアリーナ:89.2%(81.1%)、 多目的室:72.0%(65.6%) ◇業務実施状況 ・利用者登録及び申込み受付業務(施設の利用許可) ・公共施設予約システムによる貸出し管理 ・事業計画書に基づく業務(市民スポーツの普及・支援・指導など) ②維持管理業務の状況 ・消防設備点検 年2回 ・自家用電気工作物点検 月次・年次 ・大型空調機保守点検 月1回 ・エレベーター保守点検 月1回 ・自動ドア保守点検 年1回 ・事業系一般廃棄物収集運搬業務 週3回 ・産業廃棄物収集運搬処理業務 年1回 ・自動制御設備点検 年1回 ・中央監視装置総合点検 年1回 ・建築設備定期検査 年1回 ・特殊建築物定期調査 3年に1回 ・プール水水質検査 月1回 ・プール濾過設備保守点検 年2回 ・プール可動床保守点検 年1回 ・体育器具保守点検 年1回

	③その他(自主事業等) スポーツ教室(プール教室子供・プール教室大人、空手教室、チアダンス、ヒップホップ、初心者卓球教室、親子スポーツ教室、バレエ教室等)の開催、スポーツフェスティバルの開催、無料開放事業(エンジョイサタデー)の開催、ドッジボールイベントの開催、スイムプライベートレッスンの開催、トレーニングプライベートレッスンの開催、スタジオワンコインレッスンの開催、スタジオ祝日イベントの開催、映像レッスンの導入
(6)収支状況	①収入 ・利用料金収入 96,194千円(前年度 89,508千円) ・指定管理料 142,692千円(前年度 142,692千円) ②支出 ・人件費 100,136千円(前年度 101,566千円) ・事務費 32,959千円(前年度 31,529千円) ・施設管理費 117,353千円(前年度 108,422千円) 【自主事業】 ・収入 36,335千円(前年度 29,338千円) ・支出 16,971千円(前年度 16,758千円)
(7)利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等への対応	① 利用者アンケート実施期間 2025年1月15日(水)～31日(金) ② 利用者の声により、日曜日のスタジオプログラムを増やした。経年劣化により故障した脱水機の購入対応を行った。メインアリーナのフロアのウレタン塗装を実施した。
(8)その他	警送入金機を導入することにより、銀行入金時の現金運搬リスクを回避するとともにこれに伴う人件費の削減をした。(2024年8月～導入)

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
トレーニングマシンの維持管理	導入したマシンの維持管理(8台)を毎日のチェック表を用いて管理を実施。毎月指定管理者社内報告と本部によるチェックを実施した。
メインアリーナを中心とした床面対策	体育館の床面点検表を導入し、利用人数報告書内に体育館床面についてのチェック項目を追記して活用した。
メインアリーナ床面修繕・対策	床面のささくれについての対策として7月にウレタン塗装を実施。また上記の体育館床面チェック表を活用による床面補修を常時実施すると共に体育館器具備品管理研修による知識・メンテナンス研修を実施した。
定期点検項目の順守	施設管理による仕様書通りの項目を年度計画に従い履行。
節電対策	4月から電力基本需給契約を変更し費用の低減を行った。管理に当たっては水光熱の使用量を毎日メーター報告とすることで節電対策に活用した。
利用者アンケートの実施	利用者アンケートを実施し、その要望を以ってロッカーのドライヤー増設やスタジオプログラムの改変を行い、利用人数の増加に繋げた。
防災訓練の実施	消防署への届け出を行い年2回の防災訓練を実施した。(9月・3月)
定期的な安全研修の実施	防災訓練のほか年間10回の緊急時対応研修・年間8回の溺者救助研修を実施した。
市民の雇用創出	スタッフ採用はさいたま市民を優先的に採用した。特に埼玉大学からの学生を多く採用し、卒業生は各市町村の役所に就職している者も複数名おり、業務への従事が貴重な経験となっている。
指定管理者事故対応フロー運用	指定管理者間の事故発生時対応フローを作成・活用した。これを整備することで事故だけでなく、施設の維持管理についての情報連携・協力体制がより良いものとなっている。
個人情報保護についての取組	指定管理者代表企業はPマークの取得企業として個人情報については年4回・IT関連の管理についても年4回のテスト形式研修を実施した。

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進】

(あらゆる世代のニーズを満たす豊富なスポーツ教室)

利用者の声よりプログラム増設(1.管理運営の状況等記載済) 上記に加えこれまでトレーニングルームの利用説明のみを行っていたものを、トレーニングのサポートを行う初心者サポートレッスンを導入。運動が長続きしない利用者やこれから始める方に好評頂いた。映像レッスンの導入も来館を促進するアイテムとなっている。またプールでは指定管理者のノウハウを活かした子供スイミングスクール展開を行っているが、成人が泳法を学べる成人水泳教室を開講し好評を頂いている。さらに初の試みとして小学生向けのドッジボールイベントを開催。現役日本代表が教えてくれるという事もあり好評を頂いた。

(構成企業の地域ネットワーク活用)

指定管理グループ構成企業の埼玉新聞社のネットワークを活用して毎月新聞広告を掲載。施設の利用促進を図った。また埼玉新聞社によるSNS運用を開始し、HP運営と共にリアルタイムでの広報活動を展開した。10月「さくら記念祭」に合わせトップアスリートイベントとして水泳の元五輪選手 伊藤華英氏を招くイベントを実施し好評であった。

【経費の削減】

「ムリ・ムダ・ムラのない」施設運営の一環としてシャワー用節水システム館内59個を継続設置すると共に電気の基本需給契約数を変更する事により水光熱費の低減に努めた。

【適正な管理運営の確保】

(メインアリーナを中心とした床面对策)

施設の維持管理のため、7月にメインアリーナ床面のウレタン塗装を実施した。また通常メンテナンスに当たっては9月に専門事業者を招き、体育施設・備品管理研修を実施した。体育館備品の管理・メンテナンスだけでなく、スポーツフロアの管理についての知識・技術研修を実施し、安全な管理・運営を行うことに努めた。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:スポーツ文化局スポーツ部スポーツ振興課)

総合評価 (B)

1 項目別評価

【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進】

・利用者アンケートを行い、多数要望があったドライヤーの増設やプログラムの再編を行うことで利用者に寄り添った運営を行った。

【経費の削減】

・毎日使用料のメーター報告を行うことで水光熱費使用の管理や契約内容の変更を行い、経費の削減に努めた。

【適正な管理運営の確保】

・トレーニングマシンの維持管理を毎日チェック表を用いて管理した。
・社内での個人情報保護徹底のためにテスト形式の研修を年に4回実施した。

2 総合評価

・スポーツ教室を多数開催することや、イベントの開催を行うことで市民のスポーツ活動の機会を増やすことに貢献した。
・年に10回の防災訓練の実施や、メインアリーナを中心とした床面のメンテナンスを行い安全管理に努めた。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

・利用者の安全確保、利用者の利便性の向上とサービス品質の向上
・利用者アンケートを踏まえた利用者の満足度の向上
・危機管理体制の再確認
・情報セキュリティ体制の再確認